

「 信長からの手紙 ～59通、一挙公開！～」

前期:平成 27年(2015) 1月 6日(土) ～ 2月 8日(日)

後期:平成 27年(2015) 2月10日(火) ～ 3月15日(日)

	重文	作品名称	宛先	概要	制作年	期間
1		細川幽斎像		織田信長に仕え、天下布武に協力した細川藤孝の肖像画	江戸時代(17～18世紀)	通期
2	◎	織田信長黒印状	細川兵部太輔殿(細川藤孝)	敵対行動をとった義昭との対決を、当初信長は避けようとした	(元亀4年)2月23日(1573)	前期
3	◎	織田信長朱印状	細川兵部大輔殿(細川藤孝)	敵対行動をとった義昭との対決を、当初信長は避けようとした	(元亀4年)2月26日(1573)	後期
4	◎	織田信長書状	細川兵部太輔殿(細川藤孝)	将軍義昭との和睦交渉について状況を報告	(元亀4年)2月29日(1573)	後期
5	◎	織田信長黒印状	細兵殿(細川藤孝)	3メートル超の紙に和睦交渉の様子を記し、藤孝に伝える	(元亀4年)3月7日(1573)	通期 ／巻替
6	◎	織田信長朱印状	細川兵部太輔殿(細川藤孝)	信長のもとで細川家が興隆していく出発点となった文書	「元亀4」年7月10日(1573)	前期
7		蘭奢待		足利義満、義政、徳川家康に明治天皇も切り取った名香		通期
8	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	河内で一向一揆勢と戦う藤孝の軍功を称賛	(天正2年)9月22日(1574)	後期
9	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	河内で一向一揆勢と戦う藤孝の軍功を称賛	(天正2年)9月24日(1574)	前期
10	◎	織田信長朱印状	長岡兵部太輔殿(細川藤孝)	「根切」の言葉を用いて、一向一揆のせん滅を指示	(天正2年)8月5日(1574)	後期
11	◎	織田信長黒印状	長岡兵部太輔殿(細川藤孝)	鉄砲を駆使した長篠の戦いで藤孝は射手や火薬を用意した	(天正3年)5月15日(1575)	前期
12	◎	織田信長黒印状	長岡兵部太輔殿(細川藤孝)	長篠合戦の直前! 勝利に向けて自信を語る	(天正3年)5月20日(1575)	後期
13	◎	織田信長朱印状	長岡兵部太輔殿(細川藤孝)	武田家との長篠合戦直後、大勝利を速報した信長文書	(天正3年)(5月)21日(1575)	前期
14	◎	織田信長黒印状	長岡兵部太輔殿(細川藤孝)	長篠の戦いの勝利を語る。武田信玄への恨みは深かった	(天正3年)5月26日(1575)	後期
15	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	丹波・播磨方面の情勢報告に対する返信	(天正3年)10月8日(1575)	前期
16	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔とのへ(細川藤孝)	4年後に追放する佐久間信盛の動静に注目していた	(天正4年)8月22日(1576)	後期
17	◎	織田信長朱印状	長岡兵部大輔とのへ(細川藤孝)	本願寺に味方する雑賀および根来の一揆衆を攻撃せよ	(天正5年)2月10日(1577)	前期
18	◎	織田信長朱印状	長岡兵部大輔とのへ(細川藤孝)	本願寺に味方する雑賀および根来の一揆衆を攻撃せよ	(天正5年)2月11日(1577)	後期
19	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔とのへ(細川藤孝)	安土城築城と関わるか? 腕のたつ大工を派遣せよ	(天正5年)6月5日(1577)	前期

20	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔とのへ(細川藤孝)	松永久秀方の片岡城を攻めた藤孝の軍功をたたえる	(天正5年)10月3日(1577)	前期
21	◎	織田信長朱印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	丹波へ大軍を向かわせるため、期日までに軍道を整備せよ!	(天正6年カ)3月4日(1578)	後期
22	◎	織田信長朱印状	惟任日向守とのへ・長岡兵部大輔とのへ(明智光秀・細川藤孝)	食糧生産破壊と退去勧告で、本願寺の一向一揆に揺さぶり	(天正6年)4月3日(1576)	前期
23	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	荒木村重の謀反疑惑をただすように指示した黒印状	(天正6年)10月25日(1578)	後期
24	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	本願寺との戦いが長びく中、松永に続いて荒木村重が謀反	(天正6年)11月20日(1578)	前期
25	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	藤孝の献身的な状況報告を称賛	(天正6年)11月20日(1578)	後期
26	◎	織田信長黒印状	長岡与一郎とのへ(細川忠興)	謀反した荒木村重を包囲中の忠興をはげます	(天正7年)正月12日(1579)	前期
27	◎	織田信長朱印状	長岡兵部大輔殿・長岡与一郎殿(細川藤孝・忠興)	来春の摂津出陣、荒木・本願寺攻めを通知	(天正7年)12月16日(1578)	後期
28	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	あっけない武田氏滅亡に、信長も驚く	(天正10年)4月15日(1582)	後期
29	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	信長、丹後一国の統治者として藤孝を派遣	(天正8年)8月13日(1580)	前期
30	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	藤孝からの宮津城普請の申請を許可	(天正8年)8月21日(1580)	後期
31	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔とのへ・惟任日向守とのへ(細川藤孝・明智光秀)	藤孝と光秀、丹後入国にあたり抵抗勢力を討伐	(天正8年)8月22日(1580)	前期
32	◎	織田信長朱印状	長岡兵部大輔とのへ(細川藤孝)	丹後における新たな軍事編成方式を指示	「天正9」年3月5日(1581)	後期
33	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	丹後の賊船(海の領主の船)を組織し、羽柴勢支援に動員	(天正9年)7月28日(1581)	前期
34	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	藤孝と丹後水軍、山陰方面の毛利勢と戦う	(天正9年)8月23日(1581)	後期
35	◎	織田信長朱印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	室町幕府の丹後守護、丹後の名門 一色氏への配慮を指示	(天正9年)9月4日(1581)	前期
36	◎	織田信長朱印状	惟任日向守殿(明智光秀)	丹後の名門・一色氏も含めて領地を再編	「天正9」年9月7日(1581)	後期
37	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	丹後水軍、羽柴秀吉勢を支援して山陰方面で活躍	(天正9年)9月16日(1581)	前期
38	◎	織田信長黒印状	長岡与一郎とのへ(細川忠興)	丹後水軍、羽柴秀吉勢を支援して山陰方面で活躍	(天正9年)9月16日(1581)	後期
39	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	大坂本願寺の一向一揆勢と戦う中で、信長へ贈り物	(天正4年)7月29日(1576)	前期
40	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	料理にも通じた藤孝、「淀」の鯉を献上	(未詳)11月16日	後期
41	◎	織田信長黒印状	長岡与一郎とのへ(細川忠興)	忠興、「唐錦」を贈って信長を驚かす	(天正9年カ)2月17日(1581)	前期
42	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	端午の節句にあわせて「帷」を贈答	(年未詳)5月3日	後期
43	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔とのへ(細川藤孝)	端午の節句にあわせて「帷」を贈答	(年未詳)5月4日	前期
44	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	七夕の祝儀に「帷」を献上	(年未詳)7月6日	後期
45	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	重陽の節句にあわせて小袖を贈答	(年未詳)9月9日	前期

46	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	在陣中の藤孝に鯨肉のおすそ分け	(天正7年)正月12日(1579)	後期
47	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	戦況報告に対する返信として、黒印状を発給	(天正2年)8月3日(1574)	前期
48	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	戦況報告に対する返信として、黒印状を発給	(天正3年)10月9日(1575)	後期
49	◎	織田信長朱印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	権利・権限の付与に用いられた朱印状	「天正9」年9月4日(1581)	前期
50	◎	織田信長朱印状	長岡兵部大輔殿・惟任日向守殿 (細川藤孝・明智光秀)	権利・権限の付与に用いられた朱印状	(天正9年)9月10日(1581)	後期
51	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	現存する信長文書で唯一の「寶」印判状	(天正4年)6月28日(1576)	後期
52	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	信長に仕えたベテラン右筆(書記)・武井夕庵の筆跡	(天正2年)8月17日(1574)	前期
53	◎	織田信長朱印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	信長に仕えたベテラン右筆(書記)・武井夕庵の筆跡	「天正3」年3月22日(1575)	後期
54	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	筆線のたっぷりとした右筆・楠長譜の書きぶり	(年未詳) 5月4日	前期
55	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿とのへ(細川藤孝)	筆線のたっぷりとした右筆・楠長譜の書きぶり	(天正5年)2月23日(1577)	後期
56	◎	堀秀政添状	長岡兵部大輔殿(細川藤孝)	信長の文書と側近の文書が同じ筆跡!?	(天正5年)2月23日(1577)	後期
57	◎	織田信長自筆感状	与一郎殿(細川忠興)	現時点で唯一確実な織田信長の自筆文書	(天正5年)10月2日(1577)	前期
58	◎	堀秀政添状	長岡与一郎殿(細川忠興)	信長自筆を裏づける同時代人しかも信長側近の貴重な証言	(天正5年)10月2日(1577)	前期
59	◎	織田信長黒印状	明智殿(明智光秀)	光秀宛の文書、一揆勢と対峙する中、藤孝に回覧されたか	(天正2年)7月29日(1574)	前期
60	◎	織田信長黒印状	瀧川左近殿(瀧川一益)	諸将の間に回覧された? 一向一揆の徹底せん滅を指示	(天正3年)8月29日(1575)	前期
61	◎	織田信長黒印状	長岡兵部大輔殿とのへ・ 惟任五郎左衛門尉とのへ・瀧川左近とのへ・ 惟任日向守とのへ (細川藤孝・丹羽長秀・瀧川一益・明智光秀)	「猿」とは誰? 秀吉? 細川家に伝来した戦場の1通	(天正5年)3月15日(1577)	後期
62	◎	織田信長黒印状	羽柴藤吉郎とのへ(豊臣秀吉)	鳥取城攻めに関する秀吉への指示、後に藤孝へ転送?	(天正9年)6月1日(1581)	後期
63	◎	織田信長朱印状	一色五郎殿・長岡兵部大輔殿 (一色五郎・細川藤孝)	中国出陣の準備を指示。永青文庫所蔵の最後の信長文書	(天正10年)4月24日(1582)	前期
64	◎	明智光秀覚条々		信長を討った光秀が細川父子に協力を呼びかけた文書	(天正10年)6月9日(1582)	前期
65	◎	羽柴秀吉血判起請文	長岡兵部大輔殿・長岡与一郎殿 (細川藤孝・忠興)	山崎の合戦で光秀を滅ぼした秀吉、細川家との親交を誓う	天正10年7月11日(1582)	後期
66		泰岩寺鐘銘記		藤孝・忠興父子が建立した織田信長の菩提寺の記録	江戸時代(18世紀)	通期
67		綿考輯録 巻22		細川家が行った信長法要の様子を記す	江戸時代(18世紀)	通期